

2021（令和3）年度

第2学年

学習の内容と評価



IBワールドスクール ユネスコスクール

スーパーサイエンスハイスクール

ワールドワイドラーニングコンソーシアム連携校

東京学芸大学附属国際中等教育学校

6 か年を通した目標

国際社会でよりよく生きるために、物事に対する洞察力、自己と他者とを深く理解するためのコミュニケーション能力、確かで豊かな表現力を養うとともに、日本語に対する興味・関心を高める。

2 学年の目標/伸ばしたい力

2 年次は、読み取る力・書く力・聞き取る力・情報を整理する力・話す力について、1 年次で身につけた基礎をさらに伸ばすとともに、様々なテキストや考えに触れることを通して、比較して考える力や問いを発見する力などを身につけます。

規準 A 分析 (Analysing)

- i. テキストの内容、文脈、言語、構造、技法、およびスタイル（文体）と、複数のテキスト間の関係を特定し説明する。
- ii. 作者の選択が、受け手に与える効果を特定し説明する。
- iii. 例、説明、用語を用いて、意見や考えの理由を述べる。
- iv. ジャンルやテキスト内、および複数のジャンルやテキスト間で特徴の類似点と相違点を解釈する。

規準 B 構成 (Organizing)

- i. 文脈と意図に応じた組織的構造を使用する。
- ii. 意見や考えを、持続的で一貫性のある、論理的な方法で整理する。
- iii. 執筆のフォーマットを利用して、文脈と意図に適した体裁を作成する。

規準 C 創作 (Producing text)

- i. 創造的プロセスへの個人的な関わりから生じる新しいものの見方やアイデアを探究し検討しながら、思想、想像力、感受性を示すテキストを創作する。
- ii. 言語的、文学的、視覚的な表現の観点から、受け手に与える影響を認識したスタイル（文体）を選択する。
- iii. アイデアを発展させるために、関連する詳細情報と実例を選び出す。

規準 D 言語の使用 (言語の使用 Using language)

- i. 適切で多様な語彙、構文、表現形式を使用する。
- ii. 適切な言語使用域（レジスター）とスタイル（文体）で書き、話す。
- iii. 正しい文法、統語法、句読法を用いる。
- iv. 正確に綴り（アルファベット言語）、書き（文字言語）、発音する。
- v. 適切な非言語的コミュニケーション技法を利用する。

MYP 評価規準	評価方法
規準 A 分析 (Analysing)	定期テスト・ノート・ワークシート・レポート・発表
規準 B 構成 (Organizing)	定期テスト・ノート・ワークシート・レポート・発表
規準 C 創作 (Producing text)	定期テスト・創作文・発表・作品制作
規準 D 言語の使用 (Using language)	定期テスト・小テスト・プリント・レポート・発表・暗唱

文部科学省 中学校学習指導要領における教科の観点

- 観点 1 知識・技能
- 観点 2 思考・判断・表現
- 観点 3 主体的に学習に取り組む態度

学習内容

主に教科書『現代の国語 2』（三省堂）を使用します。単元によっては別にプリントや教材を配ります。次のような学習を行う予定です。

○話すこと・聞くこと

スピーチ・インタビュー・プレゼンテーション・ディスカッションなどの活動を通して、自分の意見を、根拠を明らかにして分かりやすく伝える。また、様々な立場や考えを比較しながら聞き取る。

○書くこと

文章を創作する活動を通して、文種（エッセイ・意見文・物語など、伝達すべき内容に応じた文章）に合わせて工夫をしながら表現する。

○読むこと

様々なジャンルの文章（説明的文章・文学的文章など）を読解する活動を通して、構成や展開に注意しながら文脈のとらえ方、筆者の考えの解釈の仕方、表現にそった心情・主題の読み取り方など、作品の読み方や解釈の基本を学んだりする。

○伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

古典・短歌などの学習を通して、歴史と言語文化に親しみ、生活とのつながりについて考える。また、漢字・語彙・文法への理解を深め、読解や表現の学習に役立てる。

6 年を通した目標

- グローバル化が急速なスピードで進行している今日、国際社会の一員として、現代社会の課題に興味や関心を持つ。
- 現代社会の課題を地域で生きる自分の生活と結びつけて多面的多角的にとらえ、自分の言葉で論理的・批判的に考察し、他者に伝え説明する力を伸ばす。

2 学年の目標/伸ばしたい力

社会科の学習では、次のような「力」を培っていきたいと考えます。

- 新聞やテレビで報道される社会的なできごとに対して知的好奇心をいだく「力」
- 地図や統計資料、写真や映像資料等を読み解いていく「力」
- 社会的な事象に対する自分の考えを、論理的文章でまとめていく「力」
- 学習した内容を、地図・新聞・レポートなどの形式で表現する「力」
- SDGs（持続可能な開発目標）を意識して、社会的な事象をとらえていく「力」

2 年次の歴史分野の学習では、第 1 学年で学習した地理分野の知識と関連付けながら、歴史的な見方・考え方を学び、私たちが生きる「現代」という時代がどのようなものであるのかを考えることを目指します。

MYP 評価規準

評価方法

規準 A 知識と理解

規準 A 小テスト・定期試験、授業中の学習活動、課題等から歴史的事象に関する認識と理解の程度を評価します。

規準 B 調査探究

規準 B レポートやポスターなどの提示された課題に対し、論点の選択、計画、異なる視点から情報収集などがどの程度できたかを評価します。

規準 C コミュニケーション

規準 C 授業中の発表、ポスター・パンフレット制作や作文などの活動において、学習内容や調査内容を、他者に対していかに的確に伝えることがどの程度できたかを評価します。

規準 D 批判的思考

規準 D 小テスト・定期試験、授業中の学習活動、課題等において、史料・絵図・表などを分析し読み取ることがどの程度できたかを評価します。

文部科学省 中学校学習指導要領における教科の観点

観点 1 知識・技能

観点 2 思考・判断・表現

観点 3 主体的に学習に取り組む態度

学習内容

教科書『ともに学ぶ 人間の歴史』（学び舎）、資料集『つながる歴史 東京都版』（浜島書店）以外に、授業中に配布する学習プリントや映像資料などを補助教材として用います。

主な学習内容は以下の通りです。

- < 一学期 > 人類の誕生～12 世紀の日本と世界
- < 二学期 > 13 世紀の日本と世界～18 世紀の日本と世界
- < 三学期 > 19 世紀の日本と世界

6 年を通した目標

6 年を通して、次のことを目標とし、学習を進めます。

国際社会の一員として、適切に判断し行動できる人間になるために、
 数学的リテラシーを育むとともに、数学に対する興味・関心を高め、豊かな感性を養う。

「数学的リテラシー (Mathematical literacy)」とは、たとえば、次のような力です。

- 様々な文脈において、数学的に問題を解決する力
- 数学的に推論したり、数学的根拠に基づき意思決定したりする力
- 事象を描写したり説明したり予測したりするために数学を利用する力
- 数学が世界で果たす役割を見出す力

授業では、この目標を実現するために、また、数学教育の国際的な動向に目を向け、本校の独自テキスト『TGUISS 数学』を使用しながら、次のような活動を重視していきます。

- 実社会の問題を、数学の問題に直し、数学的に処理し、得られた解をもとの問題場面に照らして解釈する活動
- グラフ電卓やパソコン等を積極的に活用した探究活動
- 数学を使い、つくる活動

2 年次は、1 年次に身につけた数、図形、事象、資料に対する見方の上に、3 年次以降の数学の学習の基礎となる概念や方法を中心に学ぶ学年と位置づけています。

なお、通常の教科書と『TGUISS 数学』との対応は、別表 1、別表 2 の通りです。

2 学年の目標/伸ばしたい力

学習内容や数学的プロセスに基づき、継続的に以下の力の育成を図っていきます。

- 様々な文脈において、数学的に問題を解決する力
- 数学的に推論したり、数学的根拠に基づき意思決定したりする力
- 事象を描写したり説明したり予測したりするために数学を利用する力
- 数学が世界で果たす役割を見出す力

MYP 評価規準

- 規準 A 知識と理解
- 規準 B パターンの探究
- 規準 C コミュニケーション
- 規準 D 実生活への数学の応用

評価方法

- 規準 A 知識と理解**
 数学の概念とスキル (技能) に関する理解について、筆記テストやレポート等を通して、評価します。
- 規準 B パターンの探究**
 様々な場面において、パターンを言葉や図、式等で表すことができ、筋道立ててその根拠を説明したり、結論を導いたりする力を、授業中の活動やレポート、筆記テスト等を通して、評価します。
- 規準 C コミュニケーション**
 適切な数学の記号と言語を用いて、事実、概念、手法、結果、結論を伝える力を、授業中の活動やノートやレポート、筆記テスト等を通して、評価します。
- 規準 D 実生活への数学の応用**
 数学が世界に対して果たす役割について理解を深めるとともに、社会問題や日常生活に数学を応用していく力とその結果を振り返る力を、授業中の活動やレポート、筆記テスト等を通して評価します。

文部科学省 中学校学習指導要領における教科の観点

- 観点 1 知識・技能
- 観点 2 思考・判断・表現
- 観点 3 主体的に学習に取り組む態度

学習内容

『TGUISS 数学2』を使用しながら、次のような学習を行います。

① 図形の移動 [4月～]

身の回りにおけるいろいろな模様などを図形の移動という観点からとらえ、図形の性質を理解し、それらを利用できるようにします。

(主な学習内容) 平行移動, 回転移動, 対称移動

② 一次関数と方程式 [5月～]

具体的な事象の中から関数関係を見出し、それらをもとに問題を解決できるようにします。また、一次関数, 連立方程式, 一次不等式について理解し、それらを利用できるようにします。

(主な学習内容) 一次関数, 連立方程式, 一次不等式

③ 平行と相似 [9月～]

動きをとまなうことで役割を果たすものから図形を見だし、その機能面に着目しながら、図形の軌跡, 平行四辺形の性質, 合同・相似の概念についての理解を深めます。

(主な学習内容) 作図, 平行線と角, 平行四辺形の性質, 合同な図形, 相似な図形

④ 図形の論証 [10月～]

三角形の合同条件や相似条件などを理解し、それらを用いて平面図形の性質を論理的に考察する能力を身につけるとともに、数学的な推論の意義と方法について理解します。

(主な学習内容) 証明のしくみ, 三角形の合同条件, 三角形の相似条件, 直角三角形の合同条件, 中点連結定理, 平行線と比, 重心, 平行四辺形になるための条件, 円周角の定理, 円周角の定理の逆, 円に内接する四角形の性質, 接弦定理, 方べきの定理

⑤ 相関と回帰 [1月～]

2変量の統計データを処理する方法として、相関関係の意味や回帰直線(ここではメジアン-メジアン直線を扱う)について理解し、2変量間のパターンをとらえる能力を身につけます。

(主な学習内容) 相関関係, 散布図, 回帰直線, メジアン-メジアン直線

※授業進度や実態に応じて順番を入れ替えたり、内容を加えたりする可能性があります。

別表1

学年	本校のカリキュラム	主な内容	学習指導要領	MYP数学
1	数の見方	整数	3年, 数学A	○
		正の数・負の数	1年	○
	事象の見方	関数の考え	1年	○
		文字式 一次方程式	1, 2年 1年	○ ○
	図形の見方	空間図形	1年	○
		投影図	1年	
		平面図形	1年	○
		球の体積, 表面積	1年	○
	データの分析	データの収集	1年	○
		データの分布と分析	1年, 数学I	○
2	一次関数と方程式	比例	1年	○
		一次関数	2年	○
		一次不等式	数学I	○
		連立方程式	2年	○
	平行と相似	平行四辺形	2年	○
		相似な図形	3年	○
		作図	1年	○
	図形の論証	三角形の合同条件	2年	○(上級)
		三角形の相似条件	3年	○(上級)
		四角形の性質	2年	○(上級)
円の性質		3年, 数学A		
相関と回帰	相関	数学I	○(上級)	
	回帰	なし	○(上級)	
3	三平方の定理と三角比	平方根	3年	○
		三平方の定理	3年	○
		三角比	数学I	○
	いろいろな関数とグラフ	反比例	1年	○(上級)
		$y=ax^2$	3年	○
		べき乗関数	数学II	
		二次関数	数学I	○
		関数のグラフ	数学I, II	○
		二次方程式	3年	
	数え上げ	集合	数学I, A	○
場合の数		数学A	○(上級)	

別表2

通常の教科書		本校のテキスト	
学年	内容	学年	単元名
1	文字と式	1	事象の見方
1	正の数・負の数	1	数の見方
1	方程式	1	事象の見方
1	比例	2	一次関数
1	反比例	4	いろいろな関数のグラフ
1	平面図形	1	図形の見方
1	作図	2	平行と相似
1	空間図形	1	図形の見方
1	資料の活用	1	資料の見方
2	式の計算	1	事象の見方
2	連立方程式	2	一次関数
2	一次関数	2	一次関数
2	平行と合同	2	平行と相似
2	三角形	2	図形の論証
2	四角形	2	図形の論証
2	確率	4	確率
3	平方根	3	三平方の定理と三角比
3	多項式	3	色々な関数とグラフ
3	二次方程式	3	色々な関数とグラフ
3	関数 $y=ax^2$	3	色々な関数とグラフ
3	相似な図形	2	平行と相似
3	円	2	図形の論証
3	三平方の定理	3	三平方の定理と三角比
3	全数調査・標本調査	4	統計基礎

6 か年を通した目標

自然に対する関心を高め、「物理」のみならず「科学」が人間生活や環境にどのような作用をもたらすかについて、具体的に論じることができるようになる。また、実験データや様々な科学的情報を、適切な科学用語を用いて説明できるようになるとともに、その傾向やパターンについて論じることができるようになる。実験では、安全に留意して実験器具や装置を使用し、他者と協力して作業できるようになる。

2 学年の目標/伸ばしたい力

2 学年では、光、音、力と圧力、電流、電流と磁界を学ぶ。理科で学ぶ内容は学年が進むにつれて可視化が難しくなっていく。物理の学習では、観察や実験を通じて、規則性を見出すことや、論理的に物事を考えられる力を身につけていく。

MYP 評価規準**評価方法**

規準 A 知識と理解

試験【規準 A】

規準 B 探究とデザイン

実験の取り組み【規準 B, C,】

規準 C 手法と評価

レポートなどの提出物【規準 B, C, D】

規準 D 科学による影響の振り返り

文部科学省 中学校学習指導要領における教科の観点

観点 1 知識・技能

観点 2 思考・判断・表現

観点 3 主体的に学習に取り組む態度

学習内容

力の働き（力の働きなど）

光と音（光の反射・屈折、凸レンズの働き、音の性質など）

電流（回路と電流・電圧、電流・電圧と抵抗、電気とそのエネルギー、静電気と電流など）

電流と磁界（電流が作る磁界、磁界中の電流が受ける力、電磁誘導と発電など）

6 か年を通した目標

自然に対する関心を高め、「生物」のみならず「科学」が人間生活や環境にどのような作用をもたらすかについて、具体的に論じることができるようになる。また、実験データや様々な科学的情報を、適切な科学用語を用いて説明できるようになるとともに、その傾向やパターンについて論じることができるようになる。実験では、安全に留意して実験器具や装置を使用し、他者と協力して作業できるようになる。

2 学年の目標/伸ばしたい力

2 学年では、生物の体のつくり、進化について学ぶ。顕微鏡での観察や解剖、実験を通して、実物に向き合いながら、生物のありようを考える。比較、仮説の立案、仮説の検証といったスキルを身に付ける。1 学年で植物の学習と比較しながら、生きるとはどういうことなのか、自分なりの考えを深めていく。また、生物について理解しようとしてきた先人たちについて知ることで、科学はどのような営みなのかに迫る。

MYP 評価規準

規準 A 知識と理解
規準 B 探究とデザイン
規準 C 手法と評価
規準 D 科学による影響の振り返り

評価方法

テスト【規準 A】
観察・実験の取り組み【規準 B, C】
レポートなどの提出物【規準 B, C, D】

文部科学省 中学校学習指導要領における教科の観点

観点 1 知識・技能
観点 2 思考・判断・表現
観点 3 主体的に学習に取り組む態度

学習内容

生物と細胞（植物細胞，動物細胞など）
植物の体のつくりと働き（葉・茎・根のつくりと働き）
動物の体のつくりと働き（呼吸，血液循環，消化，吸収，排出，刺激と反応，神経系など）
動物の仲間（脊椎動物，無脊椎動物，分類など）
生物の変遷と進化（進化論など）
生物の成長と殖え方（細胞分裂，成長，生殖など）
遺伝の規則性と遺伝子（遺伝の規則性，メンデル，遺伝子など）

保健体育科 2学年<保健体育> MYP Physical and Health Education

6か年を通した目標

体育：国際社会の一員として心と体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、積極的に運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上のための基礎・応用を学び、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。

保健：個人生活における健康・安全に関する理解を通して、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。

2学年の目標/伸ばしたい力

健康に関する基礎的な知識や概念を理解するとともに、学習内容を活用することができる。

運動の原則やルール、簡単な戦術を考えることができる。

一連の動きや技の構成などを洗練し、スムーズに展開するとともに、表現豊かに運動することができる。より複雑な運動に対して必要な技術を習得し、それを利用して課題解決を図ったり、他者に示したりすることができる。

個人やグループで、作戦、戦術を立てて攻防したり、挑戦したりすることができる。

他者との連携を図るために、協力したりや責任感を持って取り組んだりするとともに、コミュニケーション力を発揮しようとするすることができる。

学習カードの提出等、決められた約束を守ったり、協力して懸命に取り組んだりすることができる。

MYP 評価規準	評価方法
規準 A 知識と理解	期末テスト、課題やレポート等
規準 B 活動の計画	身体パフォーマンスと健康を改善するための計画の策定、計画書の記入
規準 C 応用と実践	運動技能の合理的な実践と応用能力
規準 D 活動の振り返りと改善	学習カードなどの記録の提出、取り組み等

文部科学省 中学校学習指導要領における教科の観点

- 観点1 運動や健康・安全への関心・意欲・態度
- 観点2 運動や健康・安全についての思考・判断
- 観点3 運動の技能
- 観点4 運動や健康・安全についての知識・理解

学習内容

体育

- ① 体づくり運動／スポーツテスト：4月～5月
- ② 陸上競技Ⅲ（跳躍運動を中心として）／球技Ⅱ（バレーボール）：5月～6月
- ③ 水泳基礎Ⅱ：6月～7月，9月上旬まで
- ④ 球技Ⅲ（3on3／フットサル）：9月～10月
- ⑤ 陸上競技Ⅳ（長距離を中心として）：11月～12月
- ⑥ 器械運動Ⅱ（マット運動／とび箱）：1月～3月
- ⑦ 体育理論Ⅱ（スポーツの効果と安全）：1月～3月

保健

- ① 健康と環境：4月～7月
- ② 障害の防止：9月～12月

※公開研究会等の都合により、学習の順番が前後することがあります。

6か年を通した目標

国際社会の一員として必要となる豊かな情操を養っていくために、表現および鑑賞の活動を通して、音楽を愛好する心情を育て、音楽に対する感性を豊かにし、音楽活動の基礎的な能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深め、創造的な音楽性を培う。

2学年の目標/伸ばしたい力

- 1 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を高め、音楽によって生活を明るく豊かなものに、生涯にわたって音楽に親しんでいく態度を育てる。
- 2 多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、表現の技能を伸ばし、創意工夫して表現する能力を高める。
- 3 多様な音楽に対する理解を深め、幅広く主体的に鑑賞する能力を高める。

MYP 評価規準	評価方法
規準 A 知識と理解	(A) ワークシート・作品の研究 主に授業中の学習内容を確認するプリントと、単元で扱っている主要な楽曲に対する調査（リサーチ）が評価の対象となります。
規準 B 技能の発展	(B) 歌唱テスト・編曲作品提出・器楽演奏 実技によるスキルの達成度の評価と、リズムなども含む作曲作品の提出で評価します。ボディーアンサンブルなどに取り組み、身体的表現の工夫なども評価の対象となります。
規準 C 創造的思考	(C) プロセスノート・ディスカッション 基準 B の作品などの、取り組み始めから完成までのプロセス、あるいは、具体的にどのような作品（ゴール）にしようかという議論の記述を評価します。楽譜や、音楽的な用語などを使用したアイデアの記録も評価の対象です。
規準 D 鑑賞	(D) グループワーク・相互評価 互いの作品や演奏に対して客観的に鑑賞し、相互に評価をします。また、鑑賞作品の学習やディスカッションをふまえながら、単元の探究の問いに対してレポート形式で答えていきます。特に、音楽と社会とのつながりや、現代社会における音楽の役割について扱う単元では、調査や自身の主張を記述したものが評価されます。

文部科学省 中学校学習指導要領における教科の観点

- 観点1 知識・技能
- 観点2 思考・判断・表現
- 観点3 主体的に学習に取り組む態度

学習内容

歌唱・鑑賞を中心にさまざまな音楽にふれて、音楽の楽しさや表現する楽しさを学びます。また、IBMYP のカリキュラムに則って概念的、探究的な活動をおこないつつ、現代社会における音楽の役割や実社会と音・音楽のつながりについて理解を深めていきます。

<歌唱>

男子の変声期にも配慮しながら混声合唱に取り組み、姿勢や発声などを含めた混声合唱の基礎を学習します。また、日本語と外国語（主に英語）の両方に取り組みながら、それぞれの言語の特徴やそれらの音楽的な魅力について理解を深めていきます。

<鑑賞>

オペラやミュージカル、オーケストラ、吹奏楽、世界の伝統音楽などを鑑賞し、音楽とそれ以外の芸術との関わり方や、作品への理解、表現が完成されるまでのプロセスの理解を深めていきます。歌唱で扱う楽曲と関連する鑑賞作品を味わい、また、同時にそれらの作品に取り巻く問題や課題などについて探究的に学習していきます。特に、社会的なテーマ（モラルや時事）と関連した楽曲について鑑賞し、時代背景や偏見、メディア音楽界の持つジレンマについて理解を深めていきます。

<器楽>

基礎的なリズム学習から発展的なリズム演習を通じて、楽譜の記譜や他者との音楽的コミュニケーション力を伸ばしていきます。ボディーパーカッションの創作、および演奏を通じて、身体的表現、他者との音楽的コミュニケーション能力を伸ばしていきます。

6 年を通した目標

様々な表現活動や鑑賞活動を通じて、多様な文化を体験し、独創的な発想力や構想力を高め、柔軟な感性を持つ、国際社会に通用する人間を育成する。

2 学年の目標/伸ばしたい力

美術科では 6 年間で 3 段階に分け、基礎美術、発展美術、創造美術と位置づけます。3 つの段階を学習することにより、基礎から応用まで無理なく楽しみながら学習活動ができるようにします。なお、後期課程からは芸術科は選択科目になります。

美術教室の中での活動だけでなく、学校図書館や美術館等の施設を積極的に活用し、美術に対する関心・意欲や鑑賞力・創造力を高めていきます。

2 年生は基礎的な学習を深める時期と捉え、授業を展開していきます。

MYP 評価規準

評価方法

規準 A 知識と理解
 規準 B 技能の発展
 規準 C 創造的思考
 規準 D 鑑賞

The arts process journal (APJ)、レポート
 表現活動、作品
 APJ、レポート、ディスカッション
 APJ、レポート、鑑賞活動

文部科学省 中学校学習指導要領における教科の観点

観点 1 知識・技能
 観点 2 思考・判断・表現
 観点 3 主体的に学習に取り組む態度

学習内容

1 学期

4～7 月

版画 様々な版画の種類と特徴について学習し、版画の特性を自己の表現に生かした作品を制作します。
 数学科との IDU (学際的単元) で、パターンをデザインします。

(主な学習内容・活動内容) 版画の種類と技法、伝統模様、パターンの表現、鑑賞

2 学期

9～12 月

絵画 様々な表現技法を学び絵画作品を制作します。

(主な学習内容・活動内容) 遠近法、様々な技法、空想して描く、鑑賞

3 学期

1～3 月

工芸 素材を生かした工芸作品を構想・制作します。

(主な学習内容・活動内容) 工芸、伝統工芸、彫刻、鑑賞

* 行事等授業時数の関係で内容が多少変更することがあります

6か年を通した目標

習熟度に相応するレベルでの英語による言語活動を通して、言語能力全般の伸長をめざします。生活言語能力にとどまらず、抽象的な概念操作が可能な学習言語能力の獲得が目標です。

2学年の目標/伸ばしたい力

2年次は、1年次で身につけた基礎の更なる伸長をはかり、応用する力を伸ばします。語彙、文法を基礎として、話す・聞く・読む・書く力を総合的に訓練します。特に多くの読む・書く経験を通して、情報を得て、まとめ、分析して記述する力を育成します。また、英語圏文化の理解を深め、異文化を理解しようとする態度や関心を育成します。

At the end of phase 2 (Emergent Level), students should be able to do the following in simple authentic texts:

Criterion A: Listening

- i. identify explicit and implicit information (facts and/or opinions, and supporting details)
- ii. analyse conventions
- iii. analyse connections

Criterion B: Reading

- i. identify explicit and implicit information (facts and/or opinions, and supporting details)
- ii. analyse conventions
- iii. analyse connections

Criterion C: Speaking

- i. use a wide range of vocabulary
- ii. use a wide range of grammatical structures generally accurately
- iii. use clear pronunciation and intonation in comprehensible manner
- iv. communicate all or almost all the required information clearly and effectively

Criterion D: Writing

- i. use a wide range of vocabulary
- ii. use a wide range of grammatical structures generally accurately
- iii. organize information effectively and coherently in an appropriate format using a wide range of simple and some complex cohesive devices
- iv. communicate all or almost all the required information with a clear sense of audience and purpose to suit the context

MYP 評価規準 Phase 2

評価方法

規準 A	リスニング	テスト
規準 B	リーディング	テスト
規準 C	スピーキング	スピーチ、プレゼン、ディスカッション、インタビュー
規準 D	ライティング	作文、文法問題、エッセイ、テスト

文部科学省 中学校学習指導要領における教科の観点

- 観点1 知識・技能
- 観点2 思考・判断・表現
- 観点3 主体的に学習に取り組む態度

学習内容

教科書の学習内容を踏まえて、英語の基礎を学習し、さらに表現の幅を広げます。様々な活動を通して英語力の定着をはかります。
言語、世界の文化、職業、技術、ユニバーサルデザイン、広告、世界遺産、環境問題など。

外国語科 2 学年 <英語 2 Advanced> MYP Language Acquisition

6 か年を通した目標

習熟度に相応するレベルでの英語による言語活動を通して、言語能力全般の伸長をめざします。生活言語能力にとどまらず、抽象的な概念操作が可能な学習言語能力の獲得が目標です。

2 学年の目標/伸ばしたい力

2 年次は、上記の目標を実現するための基礎となる力を維持していく学年と位置づけています。これまで英語のみならず他教科で蓄積してきた知識を動員しながら、また物事を論理的に検証し、分析するために探究活動を通して、英語で今日的な話題について考えていくことで、イマージョン授業開始まで、英語力を維持していきます。

At the end of phase 3 (Capable Level), students should be able to do the following in simple and some complex authentic texts:

Criterion A: Listening

- i. identify explicit and implicit information (facts and/or opinions, and supporting details)
- ii. analyse conventions
- iii. analyse connections

Criterion B: Reading

- i. identify explicit and implicit information (facts and/or opinions, and supporting details)
- ii. analyse conventions
- iii. analyse connections

Criterion C: Speaking

- i. use a wide range of vocabulary
- ii. use a wide range of grammatical structures generally accurately
- iii. use clear pronunciation and intonation in comprehensible manner
- iv. during interaction, communicate all or almost all of the required information clearly and effectively

Criterion D: Writing

- i. use a wide range of vocabulary
- ii. use a wide range of grammatical structures generally accurately
- iii. organize information effectively and coherently in an appropriate format using a wide range of simple and complex cohesive devices
- iv. communicate all or almost all the required information with a clear sense of audience and purpose to suit the context

MYP 評価規準 Phase 3

規準 A	リスニング	テスト
規準 B	リーディング	テスト
規準 C	スピーキング	スピーチ、プレゼン、ディスカッション、インタビュー
規準 D	ライティング	作文、文法問題、エッセイ、テスト

文部科学省 中学校学習指導要領における教科の観点

- 観点 1 知識・技能
- 観点 2 思考・判断・表現
- 観点 3 主体的に学習に取り組む態度

学習内容

新聞、インターネット、文学など多様な題材を用いて、英語を使いながらあらゆるテーマについて学ぶ力と態度を伸ばします。時事、政治、文化、環境、人権、社会、生命倫理、戦争と平和、エネルギー、経済、メディア

国際教養群 2学年 <Learning in English (LE) 2 Core>

6か年を通した目標	
言語学習だけが目的ではなく、英語で身近なところから世界規模の様々な問題を扱い、知識を蓄え、問題を発見、分析、解決していく力を育みます。	
2学年の目標/伸ばしたい力	
2年次は、上記の目標を実現するための英語でのアウトプットを可能にする力も身につける学年と位置づけています。まとまった時間を英語のみ学習することで、引き続き英語に浸る(immerse)練習をしていきます。英語学習経験のある生徒に対しても、引き続き英語で教科的な内容を操作する経験を提供します。	
評価規準	評価方法
規準 A スピーキング 規準 B ライティング	インタビュー、スピーチ、プレゼン、ディスカッション 作品、テスト
学習内容	
英語を通して、世界中の様々な時代における興味深い話題を集めた教材をもとに、語彙を増やし、読解力を高め、プレゼンテーション能力を身につけていきます。 使用予定教材 ・ Reading Adventures 2	

国際教養群 2学年 <Learning in English (LE) 2 Advanced>

6か年を通した目標	
言語学習だけが目的ではなく、英語で身近なところから世界規模の様々な問題を扱い、知識を蓄え、問題を発見、分析、解決していく力を育みます。	
2学年の目標/伸ばしたい力	
2年次は、上記の目標を実現するための英語でのアウトプットを可能にする力も身につける学年と位置づけています。まとまった時間を英語のみ学習することで、引き続き英語に浸る(immerse)練習をしていきます。英語学習経験のある生徒に対しても、引き続き英語で教科的な内容を操作する経験を提供します。	
評価規準	評価方法
規準 A スピーキング 規準 B ライティング	インタビュー、スピーチ、プレゼン、ディスカッション 作品、テスト
学習内容	
英語を使いながらあらゆるテーマについて学ぶ力と態度を伸ばします。社会科、数学科、理科など他教科からのアプローチを特に意識し、様々な問題について議論します。 使用教材 ・ Inside Reading 2 The Academic Word List in Context	

3 年を通した目標

技術によって解決できる問題に対応したソリューション開発を通して、実践的なスキルや創造的かつ批判的思考を行うための方策を身に付けます。また、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養います。

2 学年の目標/伸ばしたい力

2 学年は、1 学年よりも高度なソリューション開発を行います。身近な問題だけでなく、社会における問題の解決に取り組みます。様々な制約条件を考慮し、最適解を探究します。

規準 A 探究と分析 (Inquiring and analysing)

- i. ソリューションの提供の必要性を説明し、正当化する。
- ii. ソリューション開発のために必要とされる一次および二次資料によるリサーチを特定し、優先順位をつけ、それを述べたりリサーチ計画を作成する。
- iii. ソリューション開発のヒントを得るため、幅広く既存の製品を分析する。
- iv. 先行研究を分析し、それについて述べながら、デザインブリーフを作成する。

規準 B アイデアの発展 (Developing ideas)

- i. 収集したデータに基づき、ソリューションのデザインに関する成功規準を簡単に述べた設計仕様書を作成する。
- ii. 他者が正しく解釈できる、実現可能な幅広いデザイン案を提示する。
- iii. 選択したデザインを提示し、そのデザインを選択した理由を簡単に述べる。
- iv. 正確なスケッチや図案を作成し、選択したソリューションの製作に対する要件を簡単に述べる。

規準 C 課題解決 (Creating the solution)

- i. 論理的に筋の通った計画を立てる。その計画は時間やリソースを無駄なく使う方法が簡単に述べられており、他の生徒もそれを見てソリューションの製作ができるものになっている。
- ii. ソリューションの製作にあたり、優れた技術的スキルを示す。
- iii. 計画に従い、意図した通りの機能を実現するようソリューションを製作する。
- iv. ソリューションの製作にあたり、選ばれたデザインや計画に対して変更を加えた場合には、その理由を説明する。

規準 D 評価 (Evaluating)

- i. ソリューションの効果を測定するための正確なデータを生成する、詳細かつ適切なテスト方法について詳しく述べる。
- ii. 効果の測定結果を設計仕様書と付き合わせて、ソリューションの効果を説明する。
- iii. ソリューションをどのように改善できるかを詳しく述べる。
- iv. ソリューションが顧客やターゲット層に及ぼす影響を詳しく述べる。

MYP 評価規準	評価方法
規準 A : 探究と分析 (Inquiring and analysing)	規準 A : レポート, 定期テスト
規準 B : アイデアの発展 (Developing ideas)	規準 B : レポート, 定期テスト
規準 C : 課題解決 (Creating the solution)	規準 C : レポート, ソリューション, 定期テスト
規準 D : 評価 (Evaluating)	規準 D : レポート, 定期テスト

文部科学省 中学校学習指導要領における教科の観点

知識・技能：生活や社会で利用されている技術について理解するとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解している。

思考・判断・表現：生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。

主体的に学習に取り組む態度：よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、技術を工夫し創造しようとしている。

学習内容

夏野菜の育成による問題の解決 (生物育成の技術)
 夏野菜の育成計画を立て、計画に沿って育成を進めることで、生活における問題を解決していきます。

自動車モデルの設計・製作による問題の解決 (エネルギー変換の技術)
 ブロック型教材を使用して自動車モデルを設計・製作し、地域における問題を解決していきます。

3 年を通した目標

実践的・体験的な活動を通して、生活の自立に必要な衣食住に関する基礎的な知識と技術を習得する。また、家庭の機能について理解を深め、生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる。

2 学年の目標/伸ばしたい力

2 年：食生活や食文化について学び、調理実習を通してデザインサイクルを実践する。食品の栄養や保存、そして、食生活に関わる環境・安全な社会についても理解を深め、課題をもって生活をより良くしようとする能力と態度を育てる。

規準 A：探究と分析

- i. 食生活に関わる課題を発見し、その必要性を誰もがわかるように説明できる
- ii. 食生活の課題から、食生活を向上させるのに必要な方法を、優先順位を立てて複数示すことができる
- iii. 食生活の課題を解決するための方策を、系統立てて解析できる
- iv. 食生活の概要（デザインブリーフ）を発展させた関連調査の解析ができる

規準 B：アイデアの発展

- i. 食生活の課題解決のために、調べた内容から、食生活がより正しく行われるための計画書を作成できる
- ii. 実現可能な食生活の計画を、他者から正しく理解されるように示すことができる
- iii. 食生活の計画を制作した理由の要点をまとめることができる
- iv. 食生活の計画が正確に理解できるように構造的に図解し、必要なものを要約できる

規準 C：課題解決

- i. 論理的な計画を作成し、資源や時間の効果的な使用について要点をまとめ、食生活の課題解決ができる
- ii. 食生活の課題解決上の優れた技術を示すことができる
- iii. 食生活の課題解決計画に従って、その解決方法を選んだ理由や計画の変更点を説明できる
- iv. 食生活の課題解決策を発表できる

規準 D：評価

- i. 食生活の課題解決の成果を判断するための詳細なテスト方法を記述し、データを示すことができる
- ii. 上記の課題解決方法とは別に、食生活の課題解決の成果を説明できる
- iii. 食生活の課題解決をどのように改善したか記述できる
- iv. 食生活の課題解決が生活にあたえる影響を記述できる

MYP 評価規準

評価方法

- 規準 A 探究と分析
- 規準 B アイデアの発展
- 規準 C 課題解決
- 規準 D 評価

A～D について
ワークシート、小テスト、定期テスト
製作物、各課題の提出状況、授業の様子など

文部科学省 中学校学習指導要領における教科の観点

知識・技能：家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解し、それらに係る技能を身に付けている。

思考・判断・表現：家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を身に付けている。

主体的に学習に取り組む態度：自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとしている。

学習内容

- ①食生活と健康
 - 計画的な食事 ○食品の選び方 ○食品衛生
 - 生鮮食品の加工食品の特徴と種類を理解し、状況に応じた食品の選択や利用の仕方を考え、食事が果たす役割や健康とのかかわりについて学ぶ
- ②調理
 - 調理の基礎 ○用具と計量 ○食材の切り方 ○食品の特性 ○肉や魚の調理
 - 調理実習を通して、安全で計画的な調理ができるように学習する
- ③地域の食文化
 - 日本の食文化 ○おせち料理 ○日本の郷土料理
 - 行事食や郷土料理など、日本の食文化について学ぶ
- ④食文化とマナー
 - 和食と洋食のマナー
 - 日本と西洋の食文化を学び、いろいろな人と楽しむ会食の場や食事のマナーについて学ぶ

国際教養 1～6 学年 <国際 1～6>

6 か年を通した目標

1. 課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けて、多様な文化・社会の在り方やそこで生きる人々及び様々な現象について理解を深める。また、課題解決のための方法について知る。
2. 国際理解・人間理解・理数探究に関わる現代的な諸課題から問いを見いだし、その解決に向けて仮説を立てたり、調査のために様々な方法を実践したり、得た情報を基に考えたりする力を身に付けるとともに、考えたことについて根拠を明らかにしてまとめ、表現し、異なる文化・背景を持つ他者と共有してディスカッションする力を身に付ける。
3. 国際理解・人間理解・理数探究に関わる現代的な諸課題の解決に主体的・協働的に取り組むとともに、多様な文化・背景を持つ他者と互いのよさを生かしながら、自ら社会に参画しようとする態度を育てる。
ここで国際理解・人間理解・理数探究とは、現代的な諸課題を見る3つの視点である。
 - 国際理解…自国の文化・他国の文化を含めて、多様な文化・社会の在り方について理解を深める。
 - 人間理解…社会を支える一員として、学校・地域・国・世界に生きる人々の生き方や社会の在り方について考え、思いやりの心を身につける。
 - 理数探究…身の回りや世の中の様々な事象を科学的視点から捉え、社会に活用していく方法について考える。

各学年の目標/伸ばしたい力

- 〈1年〉様々な事柄の「つながり」を意識して学習する。異なる文化・環境に生きる人々に関心を持ち、それらに対する耐性を養う。
- 〈2年〉様々な人が生きている社会と自分との関わりを客観的にとらえ、他者との適切なコミュニケーションの方法を身につける。
- 〈3年〉様々な現代社会の課題について情報を集め、自分たちとその課題の関わりについて考え、異なる文化・背景を持つ他者とも情報や意見を共有する。
- 〈4年〉自分なりの視点で現代社会の課題を見つけ、調査・探究し、現実の社会に自らアプローチする。
- 〈5年〉異なる文化・環境を持つ他者と課題を共有し、英語でディスカッションすることができる力を身につける。
- 〈6年〉社会にとって意義ある問いを立て、それに対して何らかのアクションを起こすことを目指す。また、母語でも外国語でも、異なる文化・背景を持つ他者と自分たちの社会の課題について対話し、相互協力体制を築けるような姿勢・力を身につける。

MYP 評価規準

評価方法

総合的な学習の時間は MYP の課程内ではありませんので、該当する内容はありません。

各学年の国際教養の時間、国際教養群に入っている各教科の科目によって多様な評価が行われます。

文部科学省 中学校・高等学校学習指導要領における教科の観点

各学年で開設されている「国際○」の時間は、学習指導要領では「総合的な学習の時間」(前期課程)、「総合的な探究の時間」に対応します。総合的な学習/探究の時間では、数値による評価・評定は行われず、記述による評価がなされます。

国際教養群に入っている各教科の科目に関しては、前期・後期とも各科目で観点を設け、数値による評価・評定を行っています。

(規準例)

- LE (外国語科) : 規準 A 知識と概念 / 規準 B プレゼンテーション
- 情報 : 規準 A 課題に対する思考・判断 / 基準 B 課題に対する関心・意欲・態度
- Global issues : 規準 A 知識と理解 / 規準 B 調査研究 / 基準 C コミュニケーション / 基準 D 批判的思考
- 英語以外の言語 : 規準 A リスニング / 基準 B リーディング / 基準 C コミュニケーション / 基準 D 言語の使用
- 国際 B (College prep) : 規準 A Knowledge, Concepts and Personal Engagement with Learning / 基準 B Test-taking Language, Skills and Improvement

国際教養群に含まれる科目・学習内容

- 1年 「国際1 (情報, 理数探究)」, 「Learning in English 1」
- 2年 「国際2」, 「Learning in English 2」
- 3年 「国際3」, 「Pre Immersion」, 「Learning in English 3」
- 4年 「MYP Personal Project/課題研究」, 「Global Issues」, 「英語以外の言語」
- 5年 「課題研究」「Global Issues」「英語以外の言語」
- 6年 「課題研究」「国際A (講座: 憲法と人権・講座: 国際協力と社会貢献)」「国際B (講座: 文学探究・講座: 応用数学・講座: College Prep・講座: ファシリテーション実践)

上記の科目・総合的な学習の時間の他に、1・3・5年のワークキャンプⅠ・Ⅱ(国内)・Ⅲ(海外)・各学年や教科で実施されるフィールドワークも学習内容に含まれます。また、1年から3年では、4年次においてPPを完成させるためのスキルを身に付ける学習活動を行います。さらに、5・6年の「課題研究」は、学年の枠を越えた形態で探究活動を行います。